

❀ 2023年サクラだより 7

2023年4月9日

4月6日、本年度の開講日の大雨（神戸気象台の記録記載）に叩かれて残っていたソメイヨシノの花も散り、観察も「The End」となるのではないかと考えていたのですが、自然はそんなひ弱なものではないことを思い知らされました。暫く続いた晴天で「水不足」気味でサクラなどは展葉が遅れ気味ではないかと考えていたのですが、翌日観察に出かけると「落花」はあまり進んでいない反面、急に葉の展葉が進み、景色が変わって来たように感じました。それにしても開花がほぼ同時期であった、オオシマザクラやヤマザクラが花期終了、既に葉を広げ夏の装いに変わりつつあるのに「ソメイヨシノ」だけは何時終息となるのでしょうか？今年の「ソメイヨシノ」の開花・満開の時期の気温は後述のように記録的な高温、3月の月平均気温は各地で観測史上第1位となった地域が多く、多分近畿圏でも例外では無いと思います。確かに例年に比べ開花は早かったように思いますが、花期が縮まったようには思えません。…と言えるかどうか・・・毎年の観測も気象庁の記録に従って、開花日、満開日しか記録されて来ていません。満開となった後に花が何時無くなるのかなどの文献記述などは見られませんし、個人的にも観察は今回が初めてです。もうしばらくは「ソメイヨシノ」とお付き合いしたいと思います。

ことしの「サクラ」の開花を全国的に見れば、気象会社の開花・満開予想以上に早まり「平年値」に比べて記録的早い開花や満開が記録されました。（本件に関しては後日詳述）この附近の開花期日に関しても先の6報で報告した通り、**今年も**開花が早い年となりました。気象会社などが何次かに出して来る開花予想なども「平年値」を基準に早い、遅い、平年並みなどの記述をしています。

実はこの「平年値」自体に問題があるように思います。以下自論。

「平年値」とは既にご承知のようにXX01年から始まる30年間の平均値、2021年度からは1991年から2020年の30年間の平均値が「平年値」とされています。1981年～2010年の旧平年値に比べ、0.3～0.4℃程度高くなった。30年間でこの程度かが一般的な解釈でしょう。私自身はこの変位を全く信用していません。極めて専門的な記述になって申し訳ありませんが、簡単にいいますと「地球温暖化」の現象、1950年以降急速に上昇して来た全球温度が2000年～2010年の間では0.03℃程度にとどまり、あたかも気温上昇が停滞するような期間がありこの期をハイエイタス（Hiatus）と呼んでいます。上述のように新平年値にはこの期間が含まれているのです。実情はどうでしょう、ここ5年間の大阪の3月の気温を新平年値と比較すると下表のようになります。

大阪市のここ5ヶ年間の3月の気温経過（単位：℃）

	新平年値	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	5ヶ年平均
日平均気温	9.9	10.6	11.4	12.2	11.4	12.9	11.7
日最高気温	14.2	14.8	15.6	17.3	15.9	18.2	16.4
日最低気温	6	6.8	7.7	7.9	7.3	8.3	7.6

皆さまはどう思われますか？急速に温暖化の進んで来ている現状、気象庁も30年間と言わず、10年間単位ぐらいの平均値を表示すればよいのですが、・因みに最近ニュース番組の気象予報などで4月中旬、5月初め並みの暖かさなど解説していますがこれは「新平年値」基準でのお話しです。

本報は最近の近隣の桜ハイクなどの個人記録。本年の「桜」総括などは次報で。気楽に見て下さい。

🌸 3月30日（木）開催のMNC「夙川～芦屋川・山手の桜巡り」コースの桜と花木観察記録

集合：9：30 夙川公民館前から・・・日頃の私の散策地案内（参加21名）

- ①片鉾公園周辺 ソメイヨシノ（満開）ボタイジュ（公園のシンボルツリー）
↓ ウンナングワ（雌木・花）チャンチン（展葉）
- ②夙川緑地・山幹橋 夙川舞桜（満開）西宮権現桜（満開）
↓ コブシの並木 （花）
- ③夙川教会（教会内見学） 御衣黄桜（開花） ジュンベリー（満開）
↓ ソメイヨシノ・ヤマザクラ・オオシマザクラ（散り初め）
↓ ウンナンオウバイ（花）、リキュウバイ（花）ヤマグワ（雄花）・・・
- ④仲の池緑地公園 ソメイヨシノ、サンシュユ、イスノキ（花）ハナカイドウ（満開）
↓ 古い桜並木（散り初め）ジュウガツザクラ、ヒメタイサンボク、
- ⑤岩が平公園 ソメイヨシノ 50本（満開）大木が多い
↓ ウスギモクセイ（果実）
- ⑥甲南公園 ソメイヨシノ ベニシダレ（満開）
↓
- ⑦岩園隧道展望台 市内・甲山展望
↓ ジュウガツザクラ（花）、コブクザクラ（花） 、クレマチス（花）
- ⑧芦屋市保存林 ヤマザクラ（高木、白花満開 ）、コバノミツバツツジ（花）
- ⑨ベニシダレ群落 ベニシダレ古木群 30本 満開
↓
- ⑩芦屋霊園前広場 （昼食） ソメイヨシノ 200本満開
- ⑪さくら参道 新・旧 ソメイヨシノ並木 、陽光桜（満開過ぎ）並木
↓ ヤドリギ（マツグミ）
- ⑫芦屋神社 八重ベニシダレ（満開） シロバナミツバツツジ（満開）
↓ 西洋シャクナゲ(花)、シナミザクラ（若い果実）
- ⑬芦屋川・開森橋 芦屋川上流の両岸のソメイヨシノ並木群、城山山腹の山桜
- ⑭阪急芦屋川・14：30解散

以下：サクラ写真集

② ＊夙川舞桜

西宮市オリジナルの桜。

半八重咲き、花の色は咲き始め

薄いピンクであるが、白色に

変化する。夙川緑地公園に最近

若木の植栽が増えて来ている。

なお、この種の最大の樹は北山緑
化植物園で見られる。



②＊西宮権現桜

本種も西宮市オリジナルの桜。

こちらは花弁5、舞桜とは逆に、開花時は白色、日がたつに従い紅色に変化する。

以上2種の開花はソメイヨシノのより遅いが、花期は短い。当日は満開でした。



③ギョイコウ

オオシマザクラを基に生まれた日本原産の栽培品種のサトザクラ群のサクラ。

名前は江戸時代中期から見られ、その由来は貴族の衣服の萌黄色に近い。

花弁数は10から15程度の八重咲きで、花弁は肉厚で外側に反り返る。色は白色から淡緑色である。中心部に紅色の条線があり、開花時には目立たないが、次第に中心部から赤みが増してきて（紅変）、散る頃にはかなり赤くなる。また濃緑色の部分の裏側には、ウコンの花にはない気孔も存在する。

＊写真は観察日から3日後8分咲き程度、右は開花終期の花の様子。参考画像。



⑤岩ヶ平公園の桜

約50本の大木の桜、「バラ園」と共に地域のお花見スポット。今年は4月1日に地域のお花見大会が開催された。芦屋の姉妹都市モンテベロ（米）との友好を記念する「バラ園」に100株を超える植栽があり、4月末から「花」を楽しませてくれる。



⑦～⑧ ジュウガツザクラ（十月桜）、とコブクザクラ（子福桜）



両者とも春の開花です。今年は冬中花を付けていましたので、春の開花数は少ないのではと思っていましたが・・・。結構、花が多く見られました。

⑧ヤマザクラ

満開のトンネルでした。この森の早咲きの品種は3月中旬に開花、既に散っていました。古の人々が、農事を始める時節の目安とし、田の神様の憑代とし崇めたのはこのような桜だったのでしょね（満開が過ぎるころに茶色の葉が展葉して来ます。このような風景が見られるのはごく短期です。）



⑨ベニシダレ群落

当日前面のベニシダレ（左）は満開過ぎ、後方の10本ほどが満開の姿を見せてくれました。全体では古木30本ほど、私有地であり手入れされておらず枯れ枝が目立つ。



⑩芦屋霊園広場

ソメイヨシノを中心に200本の桜の植栽があり、満開のさくらが見られた。ここに至る『サクラ参道』と共に隠れた芦屋のお花見散策スポット。



⑪サクラ参道 陽光桜並木



⑬芦屋川

開森橋からの風景、芦屋川両岸の桜は満開でした。バックは城山。

お疲れ様でした！

14:30 無事終了

❀西宮市立「北山緑化植物園」3月29日のサクラ記録

サクラ満開、ここも隠れた花見処。

満開の庭園風景。

オオシマザクラ・ソメイヨシノ

八重ベニシダレ

他に、十月桜、西宮権現桜、夙川舞桜、宮の雛桜〈新品種〉・笹部桜、オオヤマザクラなども満開でした。



下左がササベザクラ：半八重咲き、白色から紅色に変化。

下右はオオヤマザクラ：樹高は7～8mですが、花を付けている枝は5分の1程度、元々北方系なので暖冬が影響したのかな？花芽と葉芽の関係はヤマザクラ特有。

左：宮の雛桜、下は八重ベニシダレ



今回は個人の記録のまとめで恐縮ですが、たまにはのんびりとこのようなお花見も良いのでは。

以上